

三重県立上野高等学校
同窓会報
VOL.17

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp

キャンパス訪問

「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学」がキャッチフレーズの滋賀医科大学のご紹介を。

滋賀医科大学は、44年前に国の「1県1医大」政策に伴って新設された国立の医科大学です。この時できた医科大学の多くは、近くの大学と統合され、単科の医科大学として残っているのは、本学と浜松、旭川の3医大だけで、それもひとつの特色となっています。優れた医療人の育成、卓越した医学研究はもちろん、地域住民のために質の高い「全人的医療」を実践することに力を入れています。

京都市の副学長を4年間務めた後に本学の学長に選ばれ、4年がたちました。研究者と管理者である学長では役割が全く違いますし、また、落下傘学長として外から就任したので、いろいろなことが暗中模索でした。高校時代に、組織の中で働くよりもマイペースで仕事ができる、とあって医学部に進み、そして研究者の道を選んだのですが、今は思いがけず大学の管理者になっています。

昨今は国から大学への補助金が削減されていく中で、どうやって大学の活力を維持するか、それがもっとも重要でたいへんなところだと思います。臨床医ではなく医学の基礎研究の道を進んでこられたが、ご研究のテーマは。京都大学を卒業後、研修医を経て、その後解剖学の中の「発生学」と呼ばれる分野を専門とし、先天的な疾患

の発生原因や発症メカニズムを解明する研究をしてみました。

先天性疾患を持つ胎児のおよそ9割が生まれるまでに流産してしまうのですが、1割は疾患を持ったまま誕生しないのです。研究では例えば、妊娠初期に発熱などで母体の体温が39度以上になると胎児の脳が障害されることを、臨床データやマウスによる実験で証明しました。

最近では遺伝子の面からも発生の研究が進み、人間の生まれつきを決める遺伝子と環境の関わりについて、新しい事実がいろいろ明らかになっています。経営以外にも、大学や研究の中で時代の変化のようなものはありますか。平成16年に、国立大学がすべて法人化されました。それまで研究者は国家公務員として、一応安定した状況下で研究に取り組むことができたのですが、法人化によって5年任期の有期雇用教員が増え、短期間に評価される成果を

挙げる必要がなくなりました。したがって、10年、20年かけてじっくり大きな研究に取り組むことが難しくなり、若い研究者にとつて厳しい環境で、日本の科学研究と人材育成にとつて大きなマイナスとなっています。最近の学生たちは、海外に出たがらないようです。

今は簡単に海外旅行に行けるし、ネットで情報が手に入るからかもしれません。しかし若いときに外国で暮らし、その人と付きあうことは、貴重な経験になります。私は客員研究員として30代半ばに1年半、米国に滞在しました。そこでの出会いはとても刺激になり、今も交友が続いています。

滋賀医科大学と伊賀市の医療提携や医療の地域格差については。滋賀医大からは伊賀市の市民病院への医師の派遣も行われ、救急ヘリも行き来しています。しかし、滋賀と三重は隣接しているのに心理的な距離が遠いように思います。この二つの地域はまだまだ連携を進めていける可能性があります。

医師の不足・偏在は、伊賀市に限らず全国的に深刻な問題です。滋賀医大の卒業生のおよそ3分の1が滋賀県内で医療に従事しており、その割合は多い方なのですが、それでも医師が都市部に偏在し、地方が医療過疎に陥るとい問題は解決できません。

医療の世界でもAI(人工知能)やロボットが導入され、医師の仕事も変わりつつあります。こうした時代だからこそ、使命感を持って患者に寄り添い「全人的医療」を行う医師や看護師、地域社会に貢献できる医療人材の教育に力を入れていくのです。

上高時代の思い出は。高校を卒業するまで伊賀で育ったことは、精神的にも文化的にも私の成長に大きな影響があったと思います。当時の上高にはアカデミックで受験勉強にとらわれない授業をされる先生がたくさんおられました。教科書の範囲を超えて専門的な内容を熱く語り、生徒たちもそれにこたえて積極的に勉強しました。その中で、私も学問や外の世界への憧れを強く持つようになりました。私の同級生からも学術や放送業界など様々な分野で活躍する面々が出てくることは、上高時代にそうした豊かな教えを受けたおかげだと思います。



プロフィール

しおた こうへい さん
1946年旧上野市生まれ。医学博士。京都大学名誉教授。専門は解剖学。京都大学医学部助手、同講師を経て81年助教授に。この間80年にワシントン大学客員研究員。88年、ベルリン自由大学客員教授。90年京都大学医学部教授。93年、英国レスター大学名誉客員フェローに。京都大学大学院医学研究科長・医学部長、京都大学理事・副学長、京都大学大学院総合生存学館特定教授・副学館長などを歴任。2014年4月より現職。

質の高い「全人的医療」を目指して

滋賀医科大学長 塩田浩平さん(高16回)

地域社会に貢献できる医療人材の教育に力を入れていくのです。上高時代の思い出は。高校を卒業するまで伊賀で育ったことは、精神的にも文化的にも私の成長に大きな影響があったと思います。当時の上高にはアカデミックで受験勉強にとらわれない授業をされる先生がたくさんおられました。教科書の範囲を超えて専門的な内容を熱く語り、生徒たちもそれにこたえて積極的に勉強しました。その中で、私も学問や外の世界への憧れを強く持つようになりました。私の同級生からも学術や放送業界など様々な分野で活躍する面々が出てくることは、上高時代にそうした豊かな教えを受けたおかげだと思います。

若い後輩へのメッセージを。高校時代によい友人を作り、青春を楽しんでください。すべての人との縁を大切に、人間を好きになってください。医師やその他の医療職を目指す人には特にこのことを望みたいですね。

取材 福田和幸 高18回、峠美晴・東谷薫 高32回、まとも 東谷(写真 滋賀医科大学長室で)

いあい

同窓会会長 左橋佳三

同窓会報「白亜」発行に際し、平素より同窓会運営に對しまして、物心両面に亘り、ご支援、ご協力賜わっておりますが、心からお礼申し上げます。

上高同窓会の事業の動向につきましては、例年通り3月1日に、上野高校を卒業された全日制、定時制あわせて286名の諸君の同窓会への入会式を挙行政致しました。また、恒例の横光利一先輩を偲んでの「雪解のつどい」の開催の他、事業計画通り全ての事業が滞りなく遂行されております。

ただ、現役世代の若い方達の同窓会事業に対する意識が、一部の方を除き、今ひとつ希薄でありまして、仕事優先というお立場は十分理解いたしておりますが、今後の同窓会の存続も懸念される情勢にありますことから、是非ご理解いただきご協力賜りますようお願い申し上げます。

長年に亘りご指導、ご協力賜わっております上中会様が、本年6月の総会を以って解散されましたこと、会員様のご高齢化を思慮申し上げますと致

し方のないことですが、大変残念に存じます。とは言え、今後とも一層のご指導賜りますようお願い申し上げます。

また、経済情勢、社会情勢共に国内外におきまして、依然として不安定な状態にある現在、同窓会という一つのコミュニティを一層確立し、会員相互の連携を図り、情報の交換等同窓会そのものの意義の向上に努めて参る所存でございますので、旧に倍したご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一方、本年5月に、大阪府北部を中心として家屋の損壊或いは犠牲者の出た大きな地震に見舞われましたこと、また、7月上旬には九州、四国、中国、東海各地方の広い範囲に亘り記録的な水害により、多くの方が犠牲になられたり、水没等の被害に遭遇されました地域の方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

例年のことですが、会報の発行に際しまして原稿をご寄稿いただきました方々、或いは会報の作成にご尽力賜りました方々にお礼申し上げますと共に、会員皆様方の一層のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げますこと挨拶といたします。

だと思えます。上野高校は卒業生をはじめ、地元の方々の「上野高校ファン」に支えられており、学校に向ける熱い思いや期待が大きいことを感じております。その思いにこたえるよう、生徒、保護者、地域の期待に応え、信頼される、魅力ある進学校を目指してまいります。

その中で、生徒には、色々な機会を通じ次の三つのことを呼びかけています。
①挨拶を大切にしよう
②気つきを大切にしよう
③命を大切にしよう
これらのことは、今後の進路を考える上で進学先の大学や就職先、社会からの要請が非常に高いものです。今後上野高校は、日々邁進してまいります。皆様から母校へのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。時は変わっていきまが今後共「上野高校のファン」であっていただくことを願ひ申し上げます。

時は変われど上野高校のファンとして
学校長 松井慎治

同窓会会員の皆様には、平素より上野高校へのご支援をいただき大変感謝しております。
創立119年の年を迎え、全国世界各地で上野高校卒業生が活躍されておりますことは、この上もない喜びと誇りであり、またその姿は在校生にとつても非常に心強く、今後の自信につながるものと確信しています。
昨年度着任させていただいてから東京支部、京阪神支部等沢山の卒業生の皆様にお会いする多くの機会がありました。特に、その中で平成30年をもって上野高校の前身であります「上中会」の皆様が会を解散するということご決定、ご英断をなされたことが印象深く残っております。長年脈々と継がれてきた「上中会」の精神は今後も上野高校へとしっかりと受け継がれていくものと

伊山大学のプライド残し

上中会、最後の総会

「上中会」最後の総会が6月3日、ヒルホテル・サンピア伊賀で開かれた。出席者は34名(39〜49回生)で茨城、東京、大阪など遠方からの参加もあった。

1992年(平成4)に第1回総会が開かれ、今回が27回目であるが、会員の高齢化のため、今回で活動を終えることになった。

1899年(明治32)に開校した三重県第三中学校は後に三重県立上野中学校と改称し、1947年(昭和22)に旧制の歴史を終え、新制上野北高校(現・上野高校)に引き継がれた。旧制時代の校訓「自強不息」は今も受け継がれ、伝統の月ヶ瀬マラソンは最近まで実施されてきた。



【懇親会】伊室一義氏(42回)の乾杯発声により和やかに開宴した。戦時下の学徒動員や練り上げ卒業、敗戦後の学制改革など波瀾万丈の学生時代の思い出話に花を咲かせた。葛原寛書記(47回)の胸のすくような中締めについて井上孝之副会長(44回)の先導による校歌斉唱で閉会となった。

別名「伊山大学」の歴史と伝統とプライドに満ちた雰囲気を残して惜しみながら解散となった。

また、会場では文豪横光利一生涯120年を記念して上高同窓会から刊行の「横光利一とふるさと」伊賀も販売され、朝日新聞、伊賀上野ケーブルテレビの取材を受けた。

(報告 副会長 奥友親 中49回)

【総会】星周輔会長(46回)の挨拶に始まり、岡本栄伊賀市長、左橋佳三上高同窓会長、堀昌弘上高教頭からの祝辞の後、北岡敏典氏(47回)を議長に選出して事業報告、会計報告、監査報告等で議事を終了。佐賀薫顧問(45回)の挨拶で閉会した。

永年出席功労者表彰は15名を代表し



▲最後の総会を紹介した新聞記事

旧制3校の会活動を終える

上中会 1899年(明32) 三重県第三中学校として創立の三重県立上野中学校卒業生の会

くれは会 1911年(明44) 阿山郡立伊賀実科高等女学校として創立の三重県立阿山高等女学校卒業生の会

扇の芝会 1923年(大12) 上野町立実科高等女学校として創立の上野市立高等女学校卒業生の会

前身校3校の同窓会は上野高等学校同窓会に合流するとともに、それぞれ独自の活動も続けていた。しかし、会員の高齢化、減少により近年は「くれは会」、「扇の芝会」ともに休止状態となり、「上中会」も本年度総会で休止が決定した。

佐賀 薫 (中45回)

私は上中へ昭和17年(1942)4月の入学です。上中時代の思い出といえば、一つは前年12月8日の日米開戦により、戦時体制の厳しい軍事訓練と労働力不足を補うため勉強を投げ捨てておこなわれた「学徒勤労動員」です。中学3年生の5月、当時の上野市四十九にあった海軍軍需工場(豊田式自動織機)に動員されました。労働時間は、初めは、午前8時から午後2時まで、戦争激化に伴い、郡部の者は午前7時から午後2時まで、上野の町の者は午後2時から午後7時までという2部制になりました。私は、海軍高射砲の砲弾のねじ切りをやっていたので、空襲警報が鳴ると、今は上野総合市民病院が建っている丘の上へと一目散にむしるを持って逃げるといふ毎日でした。丘から南方に見える学校や伊賀線の丸山駅付近で電

車が機銃掃射に遭った悲劇を、今も鮮明に覚えています。

もう一つの思い出は、昭和20年8月に終戦を迎え、GHQによる占領が始まると、ものの考え方が軍国主義教育から民主主義教育へと180度変わる混乱の時期でもあったということ。学徒動員からやっと解放されて学校に戻ってみると、すでに軍事教官は雲隠れ、代わって公民科に新進気鋭の村田育二先生(上中26回卒)が着任され、「民主主義(デモクラシー)とは何ぞや?」の授業でのまったく聞き慣れない言葉に戸惑い、感動しました。また、英語の鈴木一夫先生は、上野市野島(緑ヶ丘)にあった海軍飛行場の後片付けのGHQ通訳に、授業中も度々引張り出されました。

この学年は、4年で卒業しても、本来の5年で卒業してもよかったです。4年卒業組は昭和21年3月に第44回生として、私ら5年卒業組は昭和22年3月に第45回生として卒業しました。

(取材 池澤素直 高19回)

等は特別扱いの4年で卒業。他は5年生に進級した。従って上中44回と45回は同期の桜という変則クラスとなった。

軍国主義から民主主義へ、神さま天皇から人間天皇宣言への驚天動地の大転換期、上野中学時代を懸命に生き残り、生き残った者としてここに若干、当時の実情を伝えておきたい。

※この稿は、「上中会だより」第26号より再構成しました。

(安屋宣子 高19回)

奥 友親 (中49回)

終戦直後の昭和21年(1946)4月に、上野中学へ入学しました。学校行事としてよく覚えているのは、一つは、1年生の初めの高旗山への遠足です。学年末には、伝統の月ヶ瀬マラソンがありました。優秀な記録を残した生徒は、板に名前とタイムを記して雨天体操場に掲示されていました。

授業で記憶に残っているのは、地理の辻井浩太郎先生です。遺稿集『三重県地誌の研究』(昭和31年)がありましたが、私はこの先生の影響で、地理の教師となりました。生物の黒川喬雄先生の授業も非常に興味深く、夏休みの宿題としてシダや草花の標本づくりが出されました。植物学の分野で新種の発見など、活躍をされた先生です。地理の奥山茂美先生は3年生の短い期間でしたが、ユーモラスで親しみやすく、

伊賀の古琵琶湖層・耐火粘土・亜炭など身近な話題を織り交ぜた授業に非常に興味を持ちました。漢文の筒井肇二先生は「ヒンチャン」のあだ名で親しまれて、授業の最初に漢詩をきれいに朗読してくれることが印象的でした。

明治校舎として現在も残る当時の校舎には革靴のまま教室に入りました。音がしたり、床板がすり減るので、靴の裏に紙を打つことは禁止で、校内に靴の修理屋もありました。また、戦時中の焼夷弾による空襲に備えた名残りで教室の天井は取り外されており、隣の教室の音がよく聞こえたり、隣の教室へチョークを投げる生徒もいました。入学当初は教科書すらなく、国語の授業はユーモラスな説話文学を用いて、人間はどうあるべきかという道徳的な教養も教わりました。

民主主義教育が始まったとはいえず、終戦間もなくでしたから、校外でも上級生に会ったら下級生は立ち止まって通り過ぎるまで敬礼をする習慣が、上級生には残っていました。

旧制上野中学の3年生(昭和23年)の5月中旬ごろ、「明日からそれぞれの校区の新制中学に行きなさい」と言われ、私たち生徒にとっては「寝耳に水」の話でした。新制中学の授業内容は、旧制中学に通ったものにとっては復習レベルのものでした。そして、翌春再び受験をして、新制高校である上野高校へ入学しました。

(取材 増田雄 高42回)

回想 戦中・戦後の上野中学

梅田 徹 (中45回)

私たちの中学生時代は、今から考えると嘘のような狂った時代であった。

太平洋戦争が始まった翌年(昭和17)、私は神奈川県立横須賀中学に入学、昭和18年1月には父が戦況不利なガダルカナルへ救援出征。その後、私は伊賀へ帰郷し、上野中学に編入。同年の2月同盟国のドイツが連合国側に降伏した。

同年4月、上中2年生。この頃から勉強は二の次で、専ら農家の手伝いに動員された。9月、イタリヤも降伏。

3年生になって上野市四十九の豊田織機へ大砲の弾造りに動員された。このような状況で、国策により若者への軍人志願が称揚され、陸軍幼年学校、海軍飛行予科練習生、陸軍士官学校、海軍兵学校等への進学が勧められた。

昭和20年3月、硫黄島玉砕で戦局ますます逼迫。私も国を護らんとの心意気で、4月、新設の海軍兵学校予科へ入校。海軍将校への第一歩を踏む。しかし戦局は益々厳しく米軍の日本上陸を懸念して、長崎県南風崎から山口県防

府へ移転。6月26日沖繩玉砕。8月6日、広島原爆。同8日、防府空襲で勉強場所の生徒館炎上。同日、長崎原爆。同15日、遂に無条件降伏で終戦となった。休暇扱いで8月24日、貨物列車で復員帰郷する。軍籍が解かれたので、11月、再び上中4年生に編入した。

昭和21年3月、同期生で就職希望者

し送り出しました。書道室のあった明治校舎は隙間風でとても寒く、授業中に仮名の墨が凍って磨れなくなったことがありました。最近では、40代50代になった上野高校の卒業生が、先生と慕ってくれることが嬉しいですね。それから、今では珍しくない、育休。だけど、上野高校で育休を取ったのは私が初めてでした。

■芸術科目の先生として当時ほどのようにお感じでしたか。

「芸術科の教室は、設備など十分ではなかったと思います。でも母校と一言で親近感があったし、芸術教科を守る、進みたい生徒たちを守るという気持ちが強かったように思います」

■とても素敵なギャラリーですが、開館のきっかけなどは。

「退職1年前にギャラリーが完成し

ました。高校卒業時の夢がギャラリーを開くことでした。家が古美術商だったこともありましたが、伊賀に本格的なギャラリーが無いのがすごく寂しいことでした。伊賀は、町全体が芸術に溢れています。自分の楽しみとして、アートを見る権利を得て、アートに囲まれていることを幸せだと感じています。プロの作品は、心に響き魅了されます。いろんな人・作品との出会いで、これからも伊賀の人に紹介し知ってもらいたいと思っています」

(取材 峠美晴・東谷薫 高32回)

懐かしの先生を訪ねて ⑱

寺村貴視子先生

昔ながらの佇まいの伊賀市上野福居町3305番地に、数年前に念願のギャラリー「アトスペースいが」をオープンされた書道の寺村貴視子先生を訪ねました。

■先生は、上野高校の前に桑名高校で2年、そして上野高校に19年間勤務され、その後の19年間を名張西高校に移されましたが、上野高校での思い出はありますか。

「上野高校では、3年生を4回担任

ギャラリー企画展のご案内

- 8月4日〜12日 山口聡嗣展(内と外)(インスタレーション)
- 8月25日〜30日 おりょうの方葉浴 夏の筆すさび展(書画)



今年、ロサンゼルス野球記者としての長年の功績を称える賞である「ボブ・ハンター・アワード」が「スポニチ」紙の記者、奥田秀樹さんに贈られた。日本人として初めての受賞で「日本人記者が多くなっている中で、長年中心的な役割を担ってきた」ことが選出理由だそう。

「ボブ・ハンター・アワード」受賞

ロスの野球記者 奥田秀樹さん (高32回)

野茂、イチロー、田口、黒田、ダルビッシュなど日本を代表するアスリートの重要な時間を身近に取材できることが幸せ。そして、野茂英雄がドジャースで投げ出したのが1995年。あれから20年が経過し、多くの日本人選手の記憶を日本人と米国人、あるいはヒスパニック系の人達と共有し、現地で日本人選手の話で盛り上げられることが嬉しいとのこと。

奥田さんは16年前、イチローのメジャー1年目の軌跡を綴った『夢の彼方で』を出版したことをこの「白亜」で紹介した。彼は、1990年3月、単身アメリカに渡った。最初は、アメリカンフットボール、バスケットボールなどを取材していたが、日本人メジャーリーガーが増え、日本の関心が著しく高まったため97年から野球(MLB)の取材にシフトした。

最も榮譽のある賞「J・G・テイラー・スピック賞」である。その時もぜひ彼にお話を伺いたいものである。(米岡広美 高32回)

定時制で学んだ日系兄妹、大学講師に

オチャンテ・カルロスさんとロサさん (高52回)



▲大学教師として意気込みを語る兄妹

上野高校定時制で学んだ日系ペルー人の兄妹が三重大学の修士課程を経て

いまそれぞれ大学の講師を務めている。兄のオチャンテ・ムライ・カルロス・マヌエルさん(37)と妹のオチャンテ・ムライ・ロサ・メルセデスさん(36)。入国管理法改正により1990年に日系の母親が、次いで父親が来日し伊賀市で就労していた。父ウィルフレッドさんは3年前に亡くなったがとも明るい性格で上野の「日本語の会」と交流したり、フォルクローレのバンドを組んでイベントに出かけ地域の人達と交流していた。96年12月に兄妹が来日した時にはすっかり地域の人たちのネットワークができていたという。

という条件だったので二人は製造業の職場に通った。兄は単純作業が苦痛になり仕事を離れたが妹は我慢強く続けたいという。教室には金髪の生徒や居眠りをして授業に身が入らない生徒がいて、日本人は勤勉で努力家だというイメージだったのでびっくりした。また、最初の2年間は日本語の習得が中心で3年生になってようやく教科の勉強ができた。

こと、多文化化する日本社会の現状を理解することで異文化コミュニケーションと新しい視点を加えた。ロサさんは、奈良学園大学で講師をしながら更に研究を続け、外国籍労働者たちが声に出せないことや悩んでいる現状を多くの人に知ってもらいたいと考え、さらには博士号も取りたいと意気込んでいる。

上司の勧めで入学・ネクタイ姿の卒業写真

定時制同窓会会長

平岡 武さんに聞く

6月18日、大阪で地震があり、伊賀は土砂降りの雨の日、夜間定時制第1期生の平岡武さんにご自宅で定時制の黎明期の話を伺った。90歳を超えてなおおたくしゃくとしておられた。

取材の後、車を出すのが遅れた私を気遣って、ご自身の車を道路に出して待っていてくれた。

(取材 番條克治 高21回)



▲夕闇の中を登校する生徒たち (『上野高校定時制史』から)

日々だった。1950(昭和25)3月、1期生は23名が卒業した。私は25歳だった。卒業写真が残っているが、大部分の方がネクタイを締めている。民間会社の他、市役所や税務署、郵便局などに勤めている人がいて、大学に進学して、官僚になった人もいた。グラウンドに運動道具が少なく、皆で鉄棒を作り、私が先生に代わり、蹴上がりなどの模範演技をしたことも懐かしい。

し、運営・実行を生徒の手で行うことが定着しつつあります。全校生徒40名弱のうち、生徒会役員4名を含む各行事の実行委員15名が中心となって活動しています。今年度も、伊賀市「忍者フェスタ」期間中の4月28日に無料休憩所「歴史と文学の散歩道」を開設し、観光客向けに上高明治校舎の歴史、伊賀上野城、伊賀市の年間行事などについてまとめたスライドを発表し、同時に明治校舎および横光利一記念館の見学案内も行いました。スイスからの観光客を含む約100名の方々を訪れ、好評を博しました。

(定時制職員 國井圭己 高30回)

夜間部 昔

1948年(昭和23)9月、県下に勤労青年の教育を目的に定時制高校が新設された。当時、上野南高等学校の岡本好次校長は、街頭に立って生徒集めをしたと聞いている。戦時中、予科練を卒業し、飛行練習生となった。終戦後、郵便局で内勤となった。局長などの勧めもあり

1948年5月 新制高校発足
1948年9月 上野南高校(現・伊賀白鳳高校の校地)に定時制課程併設(昼間部農業科、夜間部普通科、工業科)同年度内に定時制課程の西柘植分校、山田分校が開校。
1949年4月 上野南北2高校が統合して上野高校北校舎、南校舎に。定時制は北校舎に移る。同年、定時制課程の花之木分校、河合分校が開校。
1951年4月 北校舎は上野

定時制の歩み

高校として独立し定時制中心校と分校を併設。(南校舎は上野商工高校に)
昼間部↓56年廃止、夜間部↓61年無償給食開始
花之木分校↓56年廃校
山田分校↓大山田分校↓69年廃校
河合分校↓阿山分校↓72年廃校
西柘植分校↓春日分校↓61年全日制課程に↓68年伊賀高校として独立(現・あけぼの学園高校)



▲伊賀、を説明する生徒たち (左奥)

伊賀上野城下町 二十世紀遺産に

昨年12月、日本イコモス国際委員会が「日本の二十世紀遺産21選」の一つに「伊賀上野城下町」を選んだ。五つの建築物(上野城天守閣、俳聖殿、坂倉準三設計による3施設、白鳳公園レストハウス・現市庁舎・上野西小学校体育館)と城下町の風情が調和した貴重な景観として評価されたもの。

この記念シンポジウム(主催・伊賀上野まちづくり市民会議)が、2月10日にハイトピア伊賀で開かれた。パネリスト岡森史枝さん(高41回)の感想「子供の頃、縦横無尽に走り回った城下町で特別だった場所は、市

ふるさと伊賀なう

新市庁舎 来年1月から業務

伊賀市役所の新しい庁舎が、まもなく完成します。新庁舎は四十九町の三重県伊賀庁舎隣接地に昨年から工事が進められてきました。



▲竣工まじかかな新庁舎

地上5階建てで、「伊賀の歴史・風土に学び、市民のつながりを大切にする庁舎」という設計コンセプトのもと、1階から4

役所の通りだ。シンボルの伊賀上野城と緑が濃く茂った白鳳公園を背景に、市役所庁舎、西小学校、上野高校、当時は市立図書館であった崇徳堂。近代的大きな建物と、歴史ある建物が立ち並ぶあの通りが、子供心にもとても格好良く思えた。

思い出も思い入れも大きかった西小学校が建て替えられ、南庁舎も、北庁舎も、と次々に話が及んだ時は本当に辛かったが、今回の選定によりわが街に奇跡が起きたかと思っている。

シンポジウムでは専門家の先生方のお話から、まずはその歴史的価値を「知ろうとすること」が大切であることを再認識できた。先人の想いを受け継ぎ、歴史、文化が豊かな街であり続けて欲しいと、切に願うばかりである。

若者が主役に 第20回「雪解」のついで

光自身が「ふるさと」伊賀を語ったエッセイ3本と阿山高等女学校での講演記録を再録し、同窓生7名の論考やエッセイ12篇が並んでいます。親戚である作家の岸宏子さんのエッセイ3篇、元上野高校教諭で奈良女子大名誉教授の濱川勝彦さんの論考3篇をはじめ「横光とふるさと論」アンソロジーです。

彼の小説ではしばしば「故郷喪失」を語る人物が登場し「ふるさと」にこだわり続けた作家でした。そして、小学校時代の大半と中学の五年間を過ごした青春の地を「伊賀は私の故郷」とたびたび綴っています。

新庁舎は本年中に完成、来年(平成31)1月から業務がスタートする予定です。今年3月には最寄り駅である伊賀鉄道「四十九駅」が開業しました。一方、朝夕の渋滞も予想され、アクセス道路の整備が今後の課題といわれています。

上野丸之内の現市庁舎の保存、活用については、上野商工会議所や伊賀上

野観光協会から提案が出されていますが、まだ最終決定には至っていません。中心市街地の活性化につながる早期の決定が求められています。

(木宮康介 高41回)

伊賀づくしのミステリー 麻耶雄嵩さん(高39回)の新作は伊賀市が舞台

「友達以上探偵未満」の舞台はずばり「三重県伊賀市」。伊賀上野城址南隣の三重県立伊賀野高校一年生、伊賀ももと上野あおの「桃青コンビ」が活躍するミステリー探偵小説である。連作三部構成になっていて、開巻の「伊賀の里殺人事件」は、2014年にNHK・BSプレミアムで放送された推理ドラマ「謎解きLIVE」が原案になっているそうだ。

忍者、芭蕉、俳句を絡めて、上野城公園内や城下町を舞台に物語は進んで行く。更に登場人物の名前全てが伊賀の町名や地名である。ページを捲れば随所に伊賀ワードが散りばめられており、伊賀びとであればそれに引っかけられて、純粋に犯人当てに参加出来ない。地元民の愛あるボヤキだ。

(紹介 岡森史枝 高41回)



▲店頭伊賀ミステリー本

支部だより

東京支部

第18回東京支部総会・懇親会は、12月2日、前回と同じ青学会館I.V.Yホールで開催します。講演は立命館アジア太平洋大学学長の出口明さん(高18回)。最近上梓された『0から学ぶ「日本史」講義』に似た歴史に関する講演をお願いしました。詳細は10月発行の「伊賀の友垣」(2018年号)または東京支部ホームページをご覧ください。

昨年から活動は、11月23日、26日に開催された「伊賀上野NINJAフェスタ in 上野恩賜公園」に25日、



▲「伊賀上野NINJAフェスタ in 上野恩賜公園」で

支部会員20名程が参加して同窓生である伊賀市長に花束贈呈をして激励しました。都立上野高校のエリアで県立上野高校の同窓会力を示すのも、忍者フェスタならではの企画かも知れませんが、回を重ねるごとに人も多く、伊賀の物産も売れているようです。

また、毎年6月第二日曜日開催の新卒業生歓迎会は34回目を迎え、6月10日に銀座三笠会館で開催。左橋佳三同窓会会長、本部同窓会事務局局長岡井圭己先生、福田武司先生、藤森崇史先生のご出席をいただき、新卒業生4名、上級学生8名、支部会員20名の参加で賑やかな会となりました。

(支部事務局 中森建夫 高14回)

名古屋支部

本年度の名古屋支部総会にて支部長を拝命しました。前支部長が急逝されたためですが、なんとか総会準備を整え、役員変更議案が承認されたという次第です。

私達世代は、昨年還暦を迎えた世代ですが、定年を迎え継続雇用となり、年金受給年齢が65歳となっている世代でもあります。

名古屋支部では、40代50代の幹事役員さんが、支部活動にご協力をいただいております。放送業界、建築・建設業界、不動産業界、保険業界、住宅設備業界、高速道路維持管理業界、ホテル業界等様々な業界でご活躍をされています。

今後は幹事役員の皆様と力を合わせ

京阪神支部

例年の支部総会を今年も5月27日11時より、昨年同様、水都 大阪のシンボル大川沿いにたたく「大阪キャッスルホテル」で開催し、同窓会本部から左橋会長、事務局局長の岡井先生に上野高校の中田教頭を迎え、京阪神地区在住の卒業生22名が出席しました。

来賓御二人から祝辞を受けたあと総会議事に入りました。

ここでは非申し上げたいことがありますが、それは、副支部長兼会計役を勤めていた上高12回の大北繁美氏が、胃ガンの術後経過が悪く残念ながら今年2月4日に亡くなったということですね。私としても、支部の運営を彼と二人三脚でやってきたパートナーであっただけに、全く意気消沈と云った所です。

恒例の講演は会員からの要望を踏まえ、伊賀市観光戦略課長の川部千佳さん(高37回)から「忍者市を知る」と題して、忍者にまつわる多面的なお話をお聞きしました。

懇親会では、互いに一年振りの再会で故郷を懐かしみながら心地良いひとときを過ごしました。

(支部長 百本博晃 高7回)

横光とふるさとを 考える冊子を刊行

三重県立第三中学校(現・上野高等学校)を大正5年に卒業した作家、横光一が生まれて今年の3月17日で120年になります。それを記念して上



横光一とふるさと伊賀

野高校同窓会が「横光一とふるさと伊賀」を刊行しました。横

光自身が「ふるさと」伊賀を語ったエッセイ3本と阿山高等女学校での講演記録を再録し、同窓生7名の論考やエッセイ12篇が並んでいます。親戚である作家の岸宏子さんのエッセイ3篇、元上野高校教諭で奈良女子大名誉教授の濱川勝彦さんの論考3篇をはじめ「横光とふるさと論」アンソロジーです。

彼の小説ではしばしば「故郷喪失」を語る人物が登場し「ふるさと」にこだわり続けた作家でした。そして、小学校時代の大半と中学の五年間を過ごした青春の地を「伊賀は私の故郷」とたびたび綴っています。

※「横光一とふるさと伊賀」伊賀市内の書店及び同窓会事務局で販売中。頒価500円(税別)

若者が主役に 第20回「雪解」のついで

横光の生誕120年の日に恒例の「雪解」のついでが開かれました。

☆高校生による「横光作品ビデオバトル」

伊賀市内の2高校(上野、桜丘)6名が出演。「私のおすすめの横光作品」をそれぞれ個人的な語り持ち時間5分で紹介。会場の全員が「最も読みたくなった作品」を投票し、チャンプ本をさめました。

☆芥川賞作家・伊藤たかみさんを囲んでトーク「横光文学そしてふるさと」

伊藤さんから見た横光作品の魅力と



▲伊藤さん(左から3人目)を囲んで意見交換

自身の体験に重ねて横光の望郷の念に触れた伊藤さんの講演の後、伊賀市内の2高校(上野、桜丘)4名と大学生1名が伊藤さんを囲んで意見交換をしました。

※伊藤たかみ(本名 学 上野 高校41回 卒)

早稲田大学政治経済学部在学中(1995)

伊藤たかみくんの 再会印象記

パネリストとして登壇した伊藤くんをまじまじと見つめる。芥川賞受賞の時以来だ。あれから12年が経ち、私たちは40半ばを過ぎてしまった。纏って

いたものを一枚一枚脱いできたかのようになり、とてもスマートで爽やかな中年になっていらっしやる。作家としてずっと歩いて来た自信と、子煩悩なお父さんの優しさが滲み出ている、伊藤くん、とってもいい感じ(♡)。

デイスカッションが進むにつれ、伊賀弁が出てくると「高校の時こそモテテましたよ。」と調子の良さも戻ってくる。遠方から駆けつけた同級生達を壇上からちゃんと見つけ、調子良く絡んでみせては会場の笑いを誘っていた。そこはやっぱり伊藤くんである。

横光大先輩からおもてなしを受けたようなとても素敵な「ついで」。伊藤くん、また会いましょうね!

(岡森史枝 高41回)

各回のつどいから

高3回



11月7日、8日第三回卒業生の集いが湯の山温泉で開かれた。会話は不景気な事ばかり。しかし皆を大喜びさせた話もあった。出席者の秦由怡子さんが粘土を積み重ねた塑像で日展の特選となり、過去入選を何度も果たしているとの事。現役で社会から認められる成果をあげている事に皆が大いに勇気づけられた。生きていく事が幸である。身体はともかく気持ちはまだ青年。来年の再会を誓い深夜まで語り楽しいひと時であった。(文責 今鷹)

高4回

戊戌は我等の年。5月28日、割烹亭「三田清」に、東京2、神奈川2、名古屋1、滋賀1、兵庫4、大阪2、奈良3、津市3、伊賀20、合計38名(男20、女18)の参加を得て、「仁和会伊賀の集い」を開催しました。ベテランの杉森正美さんの司会で始

高5回

八十路に入って2回目の「上五回」を6月16日「三田清」で開催しました。42歳になったとき名古屋で第一回を開催以来、2年毎に各地持ち回りで開いて来ましたが、今回で21回目を迎えます。今年も、遠く栃木的那須塩原をはじめ、関東、静岡、愛知、大阪等各地から60名の参加がありました。年々体調を崩している者も増え、物故者も93名を数える歳になりました

高12回



まり、世話人代表の西田晃が歓迎の言葉を述べた。乾杯の発声で宴が始まりました。最初、群馬県の「上毛かるた」を参考にされて伊賀地域の地名歴史と自然、文化と産業に加えて横光利一のエピソードや田中善助の功績等を五七五調に表したものです。伊賀地域から全国・世界に発信して愛用されることを期待します。

会は66年前の白亜の明治校舎での充実した3年間の体験談で盛り上がり、今なお上高魂と上高愛が生き続けている様子が漂っていました。伊賀の集いは、昭和28年3月卒業にちなんで「仁和会」を組織し、毎年5月28日に計画することに決まっています。年に負けず、病に勝って来年の再会を誓って集いを閉じました。(文責 西田晃)

が、久しぶりに会う友は若々しく活力に満ちていました。最初に物故者のご冥福を祈って黙祷を捧げ、道浦君の発声で乾杯を行い、和気あいあいとした中で賑やかに楽しく旧交を温めました。会場の雰囲気も盛り上がりつつ来た頃余興に入りました。先ず、師範である炭本晃君の詩吟「名槍日本號」の張りのある美声に聞き惚れ、続いて岡本信弘君からは、自転車でアップダウンのある道を走ることを日課としている話。若い頃からこれまでに走った距離は地球一周になるそうで、病知らずで健康そのものの彼の姿

高15回

ありましたが、今回で同窓会は一応ピリオドを打ちたいと皆様にお話いたしました。(文責 佐々木 経子)

高17回

2月24日、ヒルホテルサンピア伊賀での上高普通科17期生古希記念同窓会は、郷里に住む者たち20名が幹事となり、協議を重ね、工夫を凝らしながらすべて手造りで準備し、それぞれが当日の役割を担ってみなさまをお迎えできました。



和光さんから校歌の意味を教えていただき、その指揮のもとにしっかりと唱うことができました。そして最後に皆様の健康と活躍を願い万歳三唱をしてお開きとなりました。大変惜しまれる声が多

に感銘を受けました。次に松生宏文君からは、高校野球に魅せられ、全国大会優勝校の学校巡りをしていくとの話を聞き、我々の高校時代、三岐大会で準優勝し、甲子園出場の一歩手前までいった硬式野球部の活躍に話が盛り上がりました。最後に高校時代のヒット曲「青い山脈」を全員で歌い散会しました。長年会っていないくても、すぐに高校時代に戻れるのは同窓会であり、元気なうちは出合いを求め続けていきたく、またの再会を約束してそれぞれ家路につきま



この間、残念ながら一人二人……と物故者も出て、今回も体調不良での欠席者ありでしたが、年一回以上という開催ペースです。これには、発起人で幹事である佐賀優君の熱意と配慮に依るところが大きく、また数人のサポーターとも息が合っていています。わずかの時間でしたが、故郷伊賀や

ます。特に遠方からの方やご病氣から再起された方などにはスピーチをお願いし、積み重ねた活動の起伏を語っていただきました。また、クラス別のテーブルでは昔を彷彿とさせる会話の花が咲きました。いくつかがこころ痛む訃報や闘病のうわさには静かに祈りを捧げ、しみじみと人生の何であるかを思い起こすこともあったことでしょう。さて、時間の制約があり、諸氏の交流が十分に及ばなかったことは残念です。また逢う日まで、と誓いましたが、この催しそのものをまた何年後かに、との声は多くあるもの、お約束はできないことも現実のことかと思われ

高18回



今年の誕生日で満70歳を迎えるのが18回卒業生は3年前の大集合で約束した70歳での再会を実現。そこで今回のテーマは昨今の忍び者ブームを体験しようという「古稀だ！忍者に



その後、卒業アルバムから抜き取った遺影をスクリーンに映す恒例の物故者追悼で早く逝った友の冥福を祈った。確認できているだけで46名。ほぼ1クラスの人数が消えたことになる。開宴後のスピーチでは、出席した4名の医師からそれぞれの分野で健康保持のための知恵を披露してもらった。サプライズもあった。かつての国語科教諭、松岡禮一先生の長女が同期であることから同時刻に先生が奈良市から上野に来られていると判明。連絡がついて会場にお越しいただいた。なんと満102歳。車いすながらお元気な様子に、70歳で高齢者になったと嘆いていた面々は圧倒され大きな拍手で迎えた。約半数が参加した二次会でも交歓と合唱が続いた。(文責 福田)

東京支部新卒業生歓迎会に参加して

69回生が3月1日に卒業してからの、気がつけば3ヶ月あまり。上野高等学校では72回生280名が入学し、高校生活にも少しずつ慣れてきた頃、卒業生も全国各地で人生の新たなスタートを切り、新生活に順応してきた頃かと思



「東京支部 新入会員歓迎懇親会」が6月10日に開催され、事務局を代表して参加させていだきまし

今秋の伊賀、卒業生のコンサートが目白押し

今年で音楽科教諭として上野高校で16年目を迎える。その間、本校から毎年数名ずつが音楽家を目指して卒業していった。この9月から10月にかけて伊賀市と名張市のホール等で、私の先輩から同級生、後輩、教え子たちの演奏会が集中して開催されるのでこ

- 山田佐和子ピアノコンサート
ピアノ：山田佐和子(高28回)
テノール(客演)：波多野均(高18回)
9月2日(日) 13:00開場 13:30開演
アドバンスコブADSホール
福森道華「PIANO IMAGES」3rdアルバムCDリリース記念コンサート
ピアノ：福森道華(高38回)
9月2日(日) 18:30開場 19:00開演
ハイトピア伊賀5Fホール
地域のピアニストによるジョイントコンサート
ピアノ：今野尚美(高42回)、北川美晃(高42回)
テノール(客演)：波多野均(高18回)
9月30日(日) 13:30開場 14:00開演
ふるさと会館いが
若き二人の演奏家によるデュオコンサート～秋を彩る音楽の調べ～
ピアノ：桂 眞優(高63回)
クラリネット：福岡裕子(高63回)
10月6日(土) 15:00開場 15:30開演
史跡旧崇広堂講堂
吉鶴夫妻によるデュオリサイタル～ベートーヴェンの作品と津軽海峡冬景色～
ピアノ：吉鶴ゆかり(高40回)
ヴィオラ：吉鶴洋一
10月7日(日) 15:00開場 15:30開演
史跡旧崇広堂講堂

平成30年度(2018年) 総会のご案内

とき 10月6日(土)
14:00～記念講演 15:00～総会 16:00～懇親会(会費3,000円)
ところ 上野フレックスホテル
伊賀市平野中川原 544-2 ☎0595-21-3111

記念講演 (一般公開)
講師 吉鶴 ゆかりさん (高40回・ピアノ奏者)
吉鶴 洋一さん (新日本フィルハーモニー交響楽団 ヴィオラ奏者)
演題 「広がる音の輪、繋がる人の輪」

懇親会アトラクション
吉鶴洋一さん・ゆかりさん夫妻による アンサンブルコンサート

平成29年度の総会が、去る10月7日に出席者約60名を迎えて上野フレックスホテルにおいて開催されました。総会に先だつて記念講演会では中澤真規さん(高42回、日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエ上級プロ)が「知らないで食べる」から「知って食べる」へ野菜ソムリエのベジフル講座という演題で、野菜食を中心とした健康的な食生活の送り方を一般人にもわかりやすく、また珍しい食材の紹介などを交えながらお話ししてくださいました。懇親会の参加者は約40名で、昨年同様盛況でした。

29年度総会報告

お詫び
昨年発行の「白亜」VOL.16・2面の「キャンパス訪問」の記事で、豊岡謙尔さん(高11回)のお名前の表記に誤りがございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。
「宛名不明会員解消」にご協力を
上野高校同窓会は、4万5000名以上の会員により構成されており、以上は、同窓会活動の根幹と考

寄贈図書

- 「ガスマンのための営業読本」 著者 寄贈 中井茂平(高22回)
「つん読を読む 一書評集」 池淵 修著 寄贈 中森正一(高20回)
「伊賀の郷土史あれこれ」 著者寄贈 北出楯夫(高10回)
歌集「高遠」 著者寄贈 市川八重子(高7回)
「横光利一研究」上野高校文芸部編 著 寄贈 広沢良美(高18回)

書評

「ガスマンのための営業読本」(株式会社ガスエネルギー新聞 刊)
本校同窓会の中井茂平副会長が郷土愛に満ちた著書を上梓した。ガスマンの経営・営業等は私の理解力を超えているが、伊賀の未来についての識見には学ぶことが多い。高齢者支援や青少年育成など、地域に密着した企業活動には頼もしさを感じる。章立ての間に挟まれる「ガス燈」は筆者の身近雑記的な味わい深いエッセイである。今度、ガス展に顔を出してみようかな。
(番條克治 高21回)

平成28年度(平成28年9月1日～平成29年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成29年度(平成29年9月1日～平成30年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

Table with 6 columns: 科目, 本年度予算額(A), 前年度予算額(B), 前年度決算額(C), 対A-B, 比A-C. Includes sections for 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

コンビニからでもスマホでも 会費納入が便利になりました

会員の皆様方には、年会費のご納付等、ご協力いただいておりますが、残念ながら近年そのご納付いただく方が減、同窓会事業の遂行を優先することから、積立金の多額の取り崩しを余儀なくされております。この状態があと数年続きますと同窓会の存続そのものが懸念されます。

つきましては、会費が三年を越えてご納付いただいております方へは、会報「白亜」をご送付申し上げます。ごとし、高校卒業後四年以下の新入会員様には、同窓会をご理解いただく上において、これに限らずご送付いたします。
また今年度より会費の振込用紙を刷新し、これまでのようちよ銀行に加え、全国の主要コンビニエンスストアでの払込みが可能になりました。また、スマホを利用した払込み方法の説明書も同封しておりますので、何卒同窓会事業へのご理解をいただき、年会費納付にご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。